

## 新型コロナウイルス感染症に係る健康影響（後遺症等）の調査結果について

## 1 目的

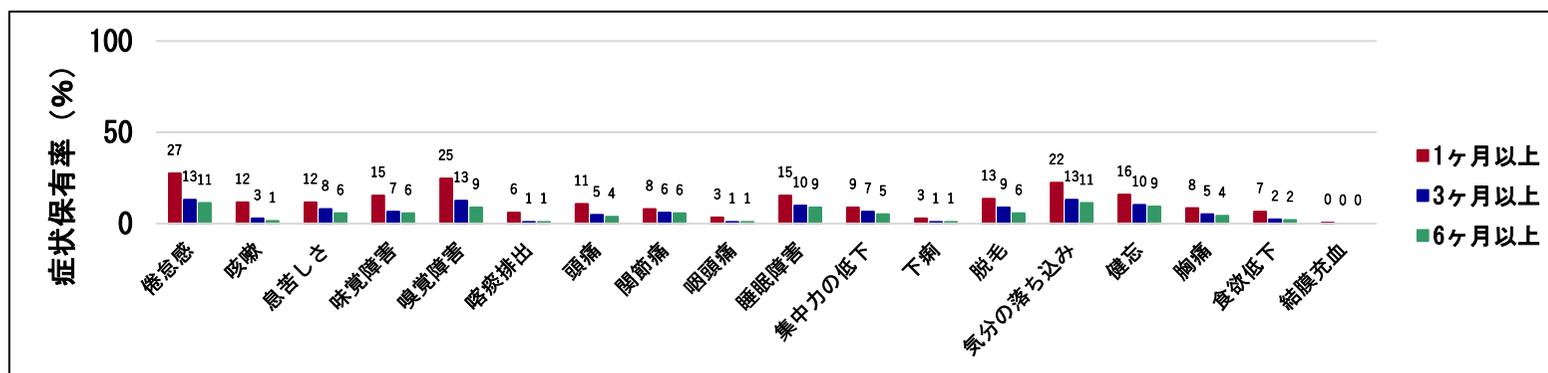
県内で新型コロナウイルス感染症に罹患した患者の感染後の症状（いわゆる後遺症）による健康影響や社会的影響の実態を把握するため調査を実施したものを。

## 2 調査概要（詳細は別紙参照）

- (1) 調査期間 令和3年11月15日～12月15日
- (2) 調査方法 郵送調査（無記名）
- (3) 対象者 528名（R2.7.29～R3.3.31の新型コロナ確定患者のうち16歳以上の者）
- (4) 回答者 218名（回答率41.4%）
- (5) 調査結果

## ア 健康影響（症状）

6ヶ月以上継続した症状として倦怠感、気分の落ち込みと回答した方が11%と最も多く、嗅覚障害（9%）等が続いた。国の調査に比べ、本県では倦怠感は低い、症状の出現頻度や遷延の状況は全国調査と相関する結果となった。



## イ 社会的影響

差別と偏見は約7割があったと回答した。

## 3 今後の対応

## (1) 健康影響（症状）

ア 県医師会を通じて県内医療機関に、後遺症が疑われる患者が受診した際には、国が令和3年12月にとりまとめた診療の手引きに基づき対応するよう周知した。

イ 後遺症が疑われる方は、まずはかかりつけ又は最寄りの内科で対応することとし、県民向けの診療の案内を県ホームページにより周知する。

## (2) 社会的影響

引き続き、差別・偏見・誹謗中傷をすることのないようあらゆる機会を捉え発信を行う。

## 新型コロナウイルス感染症に係る健康影響（後遺症等）の調査結果

### 1 目的

県内で新型コロナウイルス感染症に罹患した患者の感染後の症状（いわゆる後遺症）による健康影響や社会的影響の実態を把握するため調査を実施する。

### 2 結果概要

#### (1) 属性情報

回答者の居住地は内陸地域が72%、県北・沿岸地域が26%であった。

#### (2) 入院中の状況

酸素投与を受けた患者が8.5%、集中治療を受けた患者が1.4%であった。

#### (3) 健康影響（症状）

6ヶ月以上継続した症状として倦怠感、気分の落ち込みと回答した方が11%と最も多く、嗅覚障害（9%）等が続いた。国の調査に比べ、本県では倦怠感は低いが、症状の出現頻度や遷延の状況は全国調査と相関する結果となった。

#### (4) 社会的影響

差別と偏見は約7割があったと回答した。

#### (5) 気分の落ち込み

CES-D（気持ちの落ち込み度評価）で、約10%に軽度以上のうつ症状を認めた。

### 3 調査方法等

#### (1) 調査期間

令和3年11月15日～12月15日

#### (2) 調査対象者

令和2年7月29日から令和3年3月31日までに新型コロナ確定患者のうち16歳以上の者（計528名）（解析の一部は上記患者のうち一部のみ分析）

#### (3) 調査方法

積極的疫学調査票等から情報を抽出し、自記式質問紙票を郵送。調査に同意があった方が無記名で回答し、令和3年12月15日までに返信のあったデータを分析

# 新型コロナウイルス感染症に係る健康 影響（後遺症等）の調査結果について （令和4年2月25日）

## 1 目的

県内で新型コロナウイルス感染症に罹患した患者の健康影響や社会的影響の実態を把握するため調査を実施したもの。

## 2 調査期間

令和3年11月15日～12月15日

## 3 調査対象者

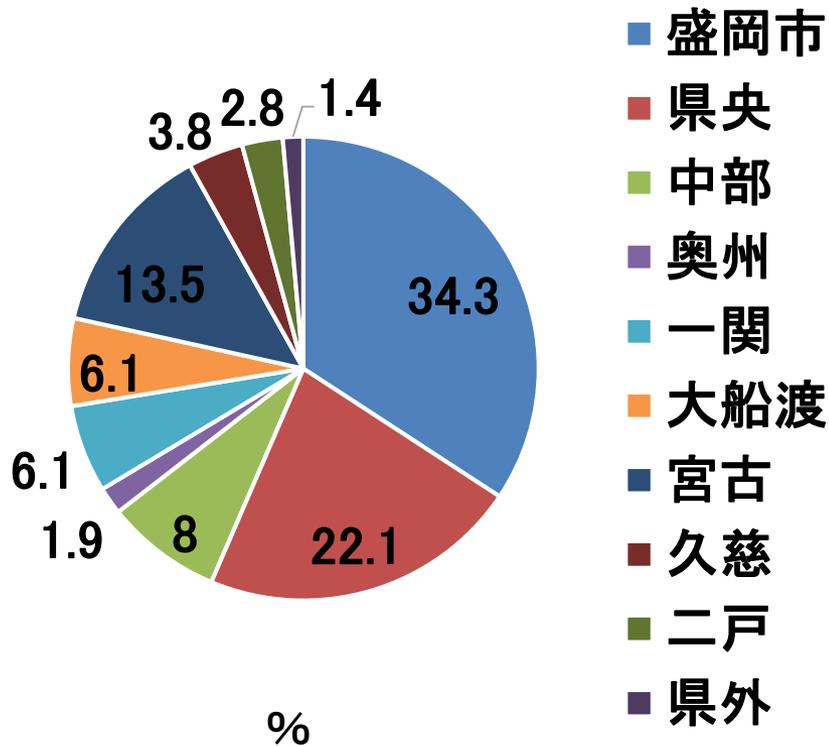
令和2年7月29日から令和3年3月31日までに確定した患者（計528名）。  
（解析の一部は上記患者のうち一部のみ分析）。

## 4 調査方法

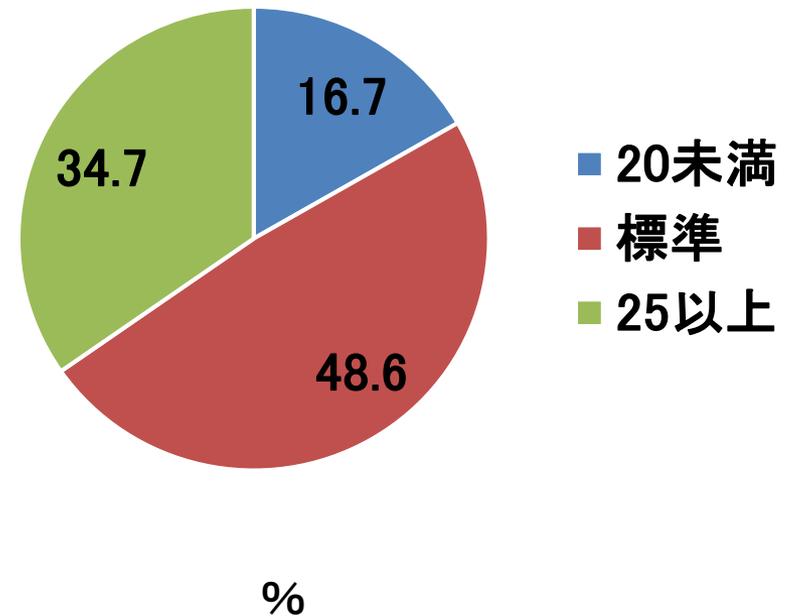
積極的疫学調査票等から抽出した情報の中で、記載があった住所へ自記式質問紙票を郵送。調査の趣旨に同意いただいた方が無記名で回答し、令和3年11月15日（月）～12月15日（水）までに返信のあったデータを分析。

# 属性情報

## 居住地 (回答数=213)



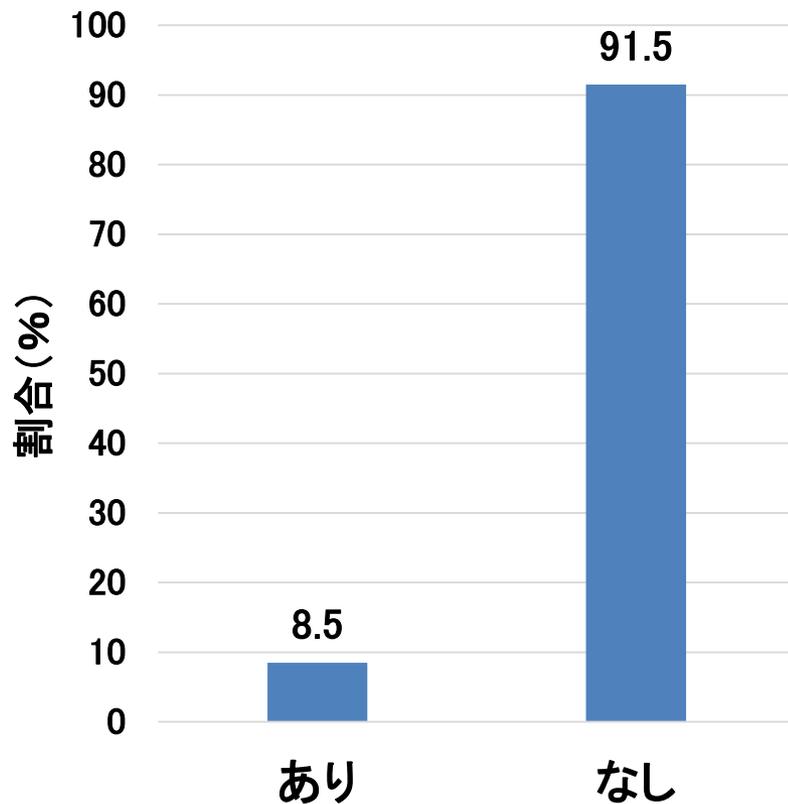
## 肥満度 (回答数=210)



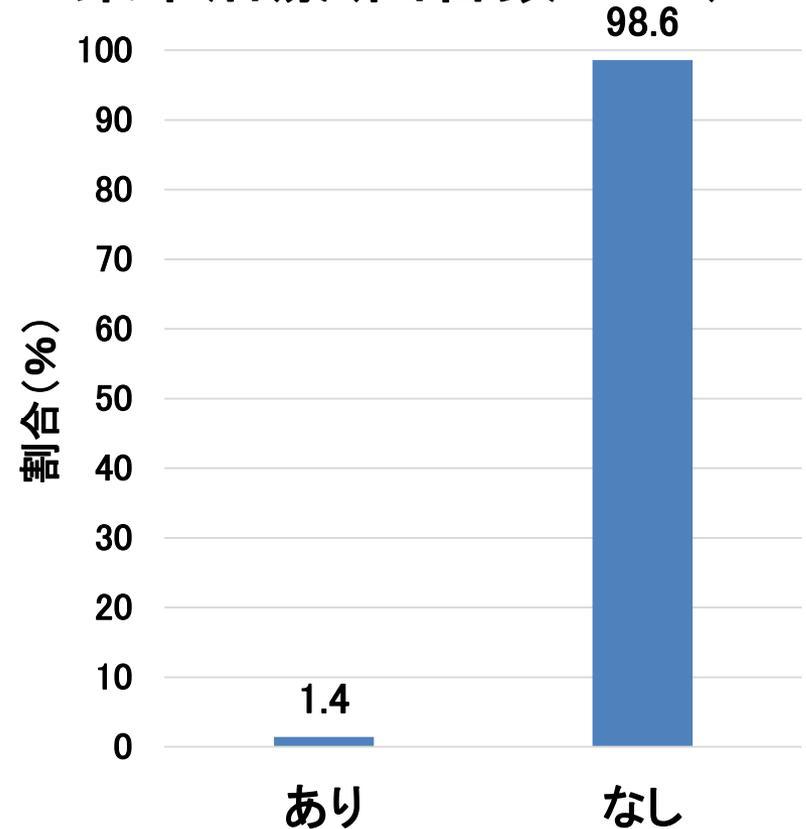
回答者の居住地は、内陸地域が72%、県北・沿岸地域が26%であった。  
体格指数 (Body mass index) で肥満度を調べたところ、約半数が標準体重だった。

# 入院中の状況

## 酸素投与(回答数=213)



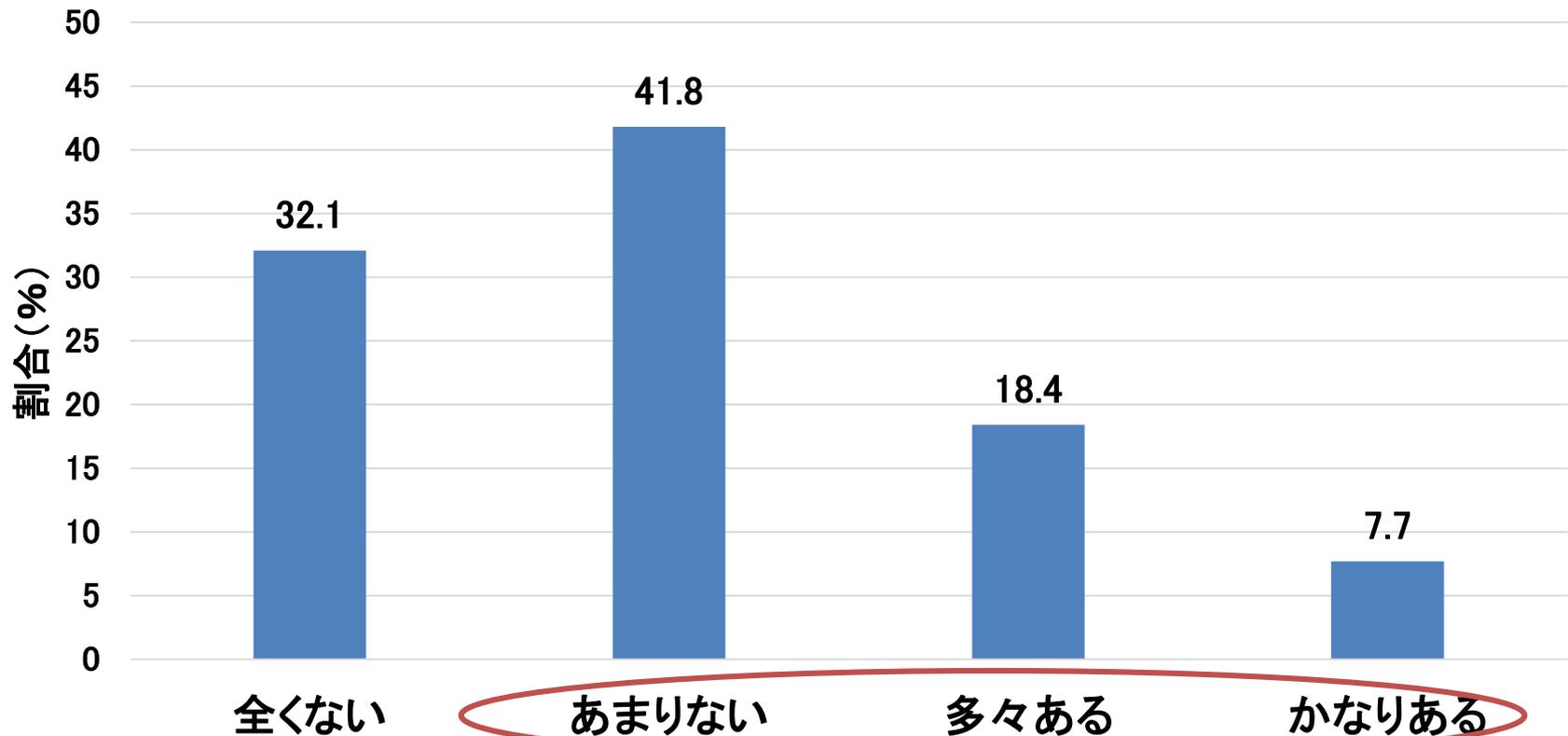
## 集中治療(回答数=212)



酸素投与を受けた患者が8.5%、集中治療を受けた患者が1.4%であった。

# 社会的影響(差別・偏見)

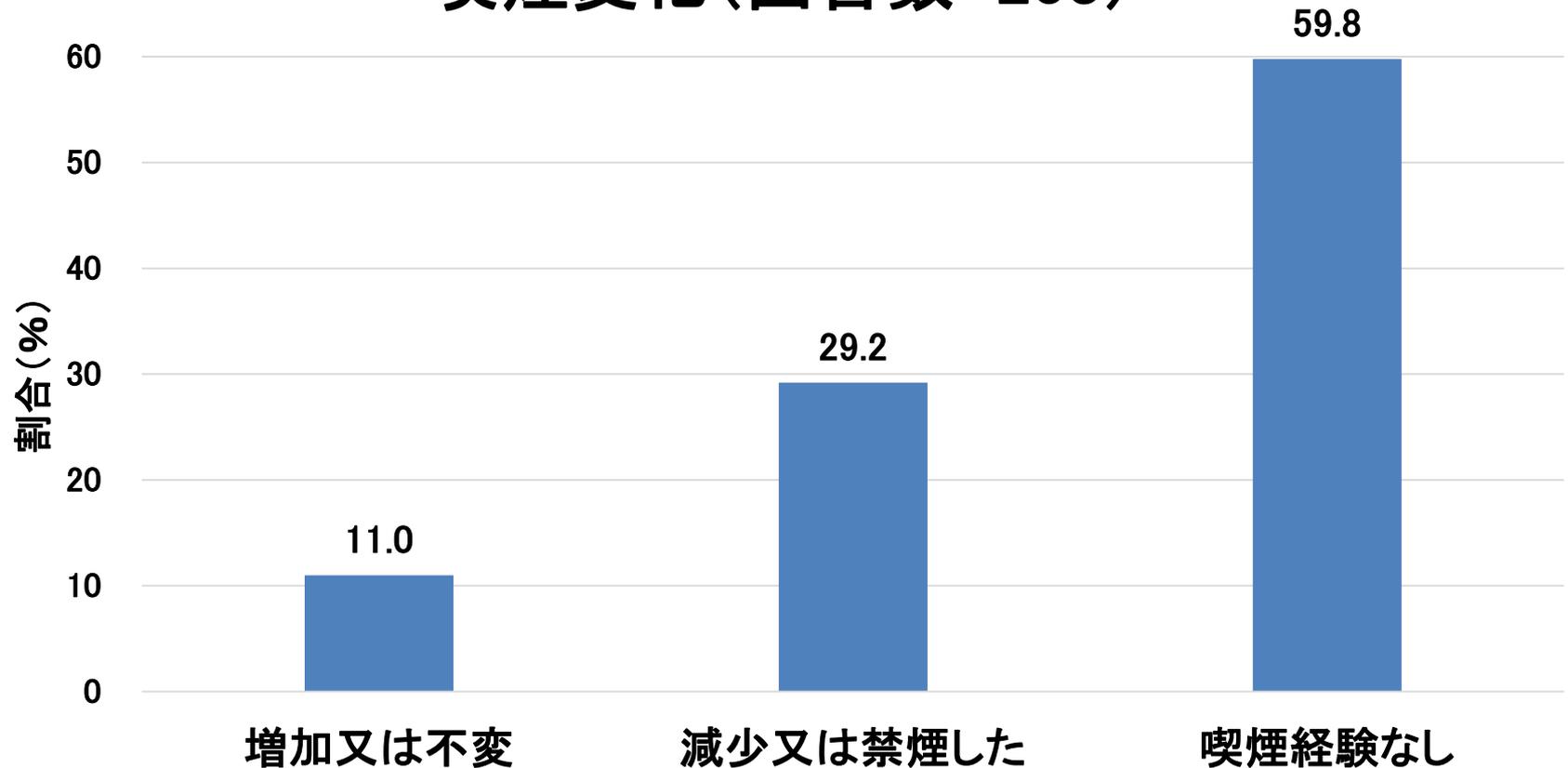
## 差別・偏見(回答数=196)



差別と偏見について、約7割の方が何らかの差別と偏見があったと回答した。

# 喫煙変化

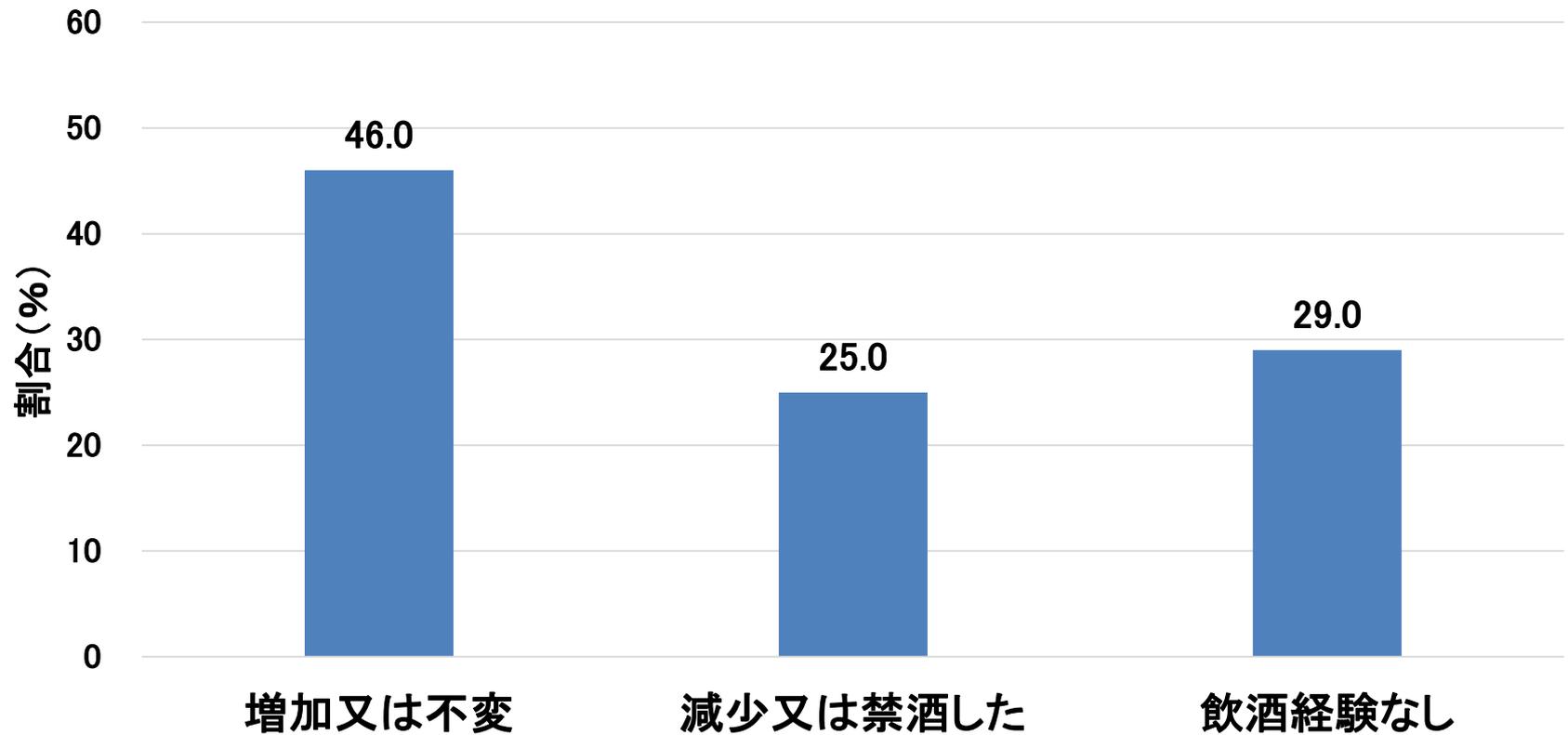
## 喫煙変化(回答数=203)



罹患後に、喫煙は減少したが、飲酒は増加する傾向があった。

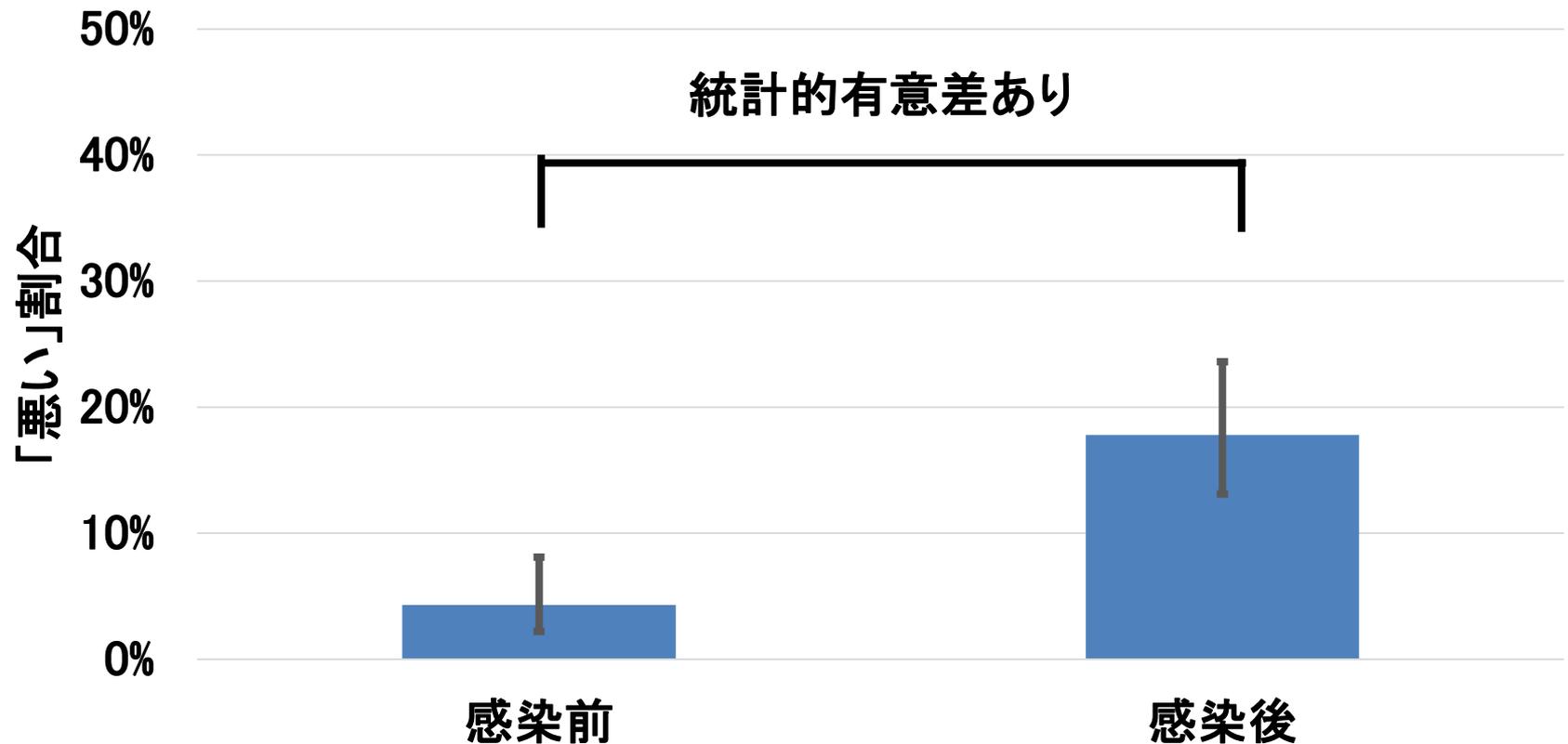
# 飲酒変化

## 飲酒変化(回答数=200)



# 主観的自己健康観

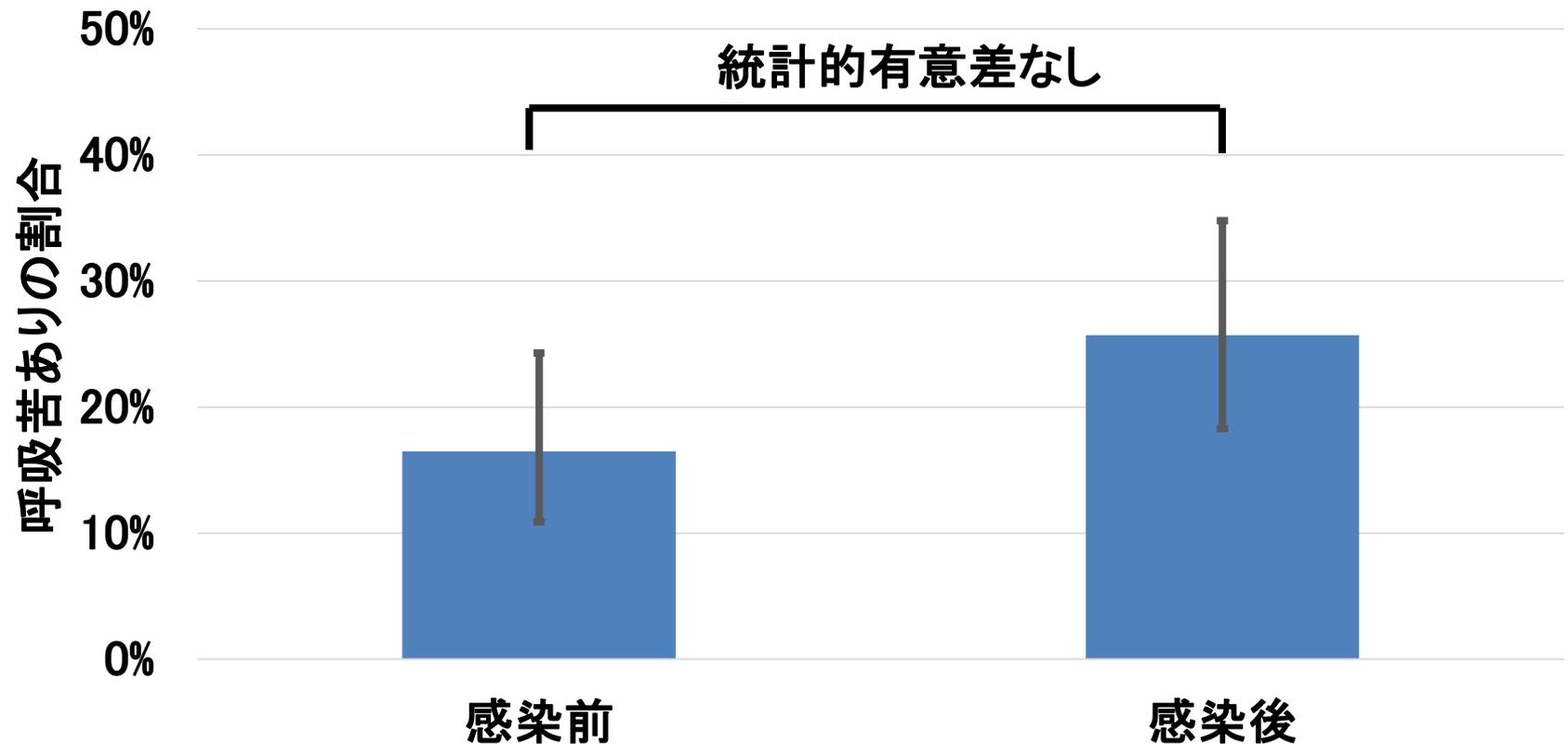
## 「悪い」主観的健康感（回答数=210）



主観的健康観をコロナ感染前後で示したところ、コロナ感染後に有意に主観的健康観が「悪い」の割合が有意に増加した。

# 呼吸器症状

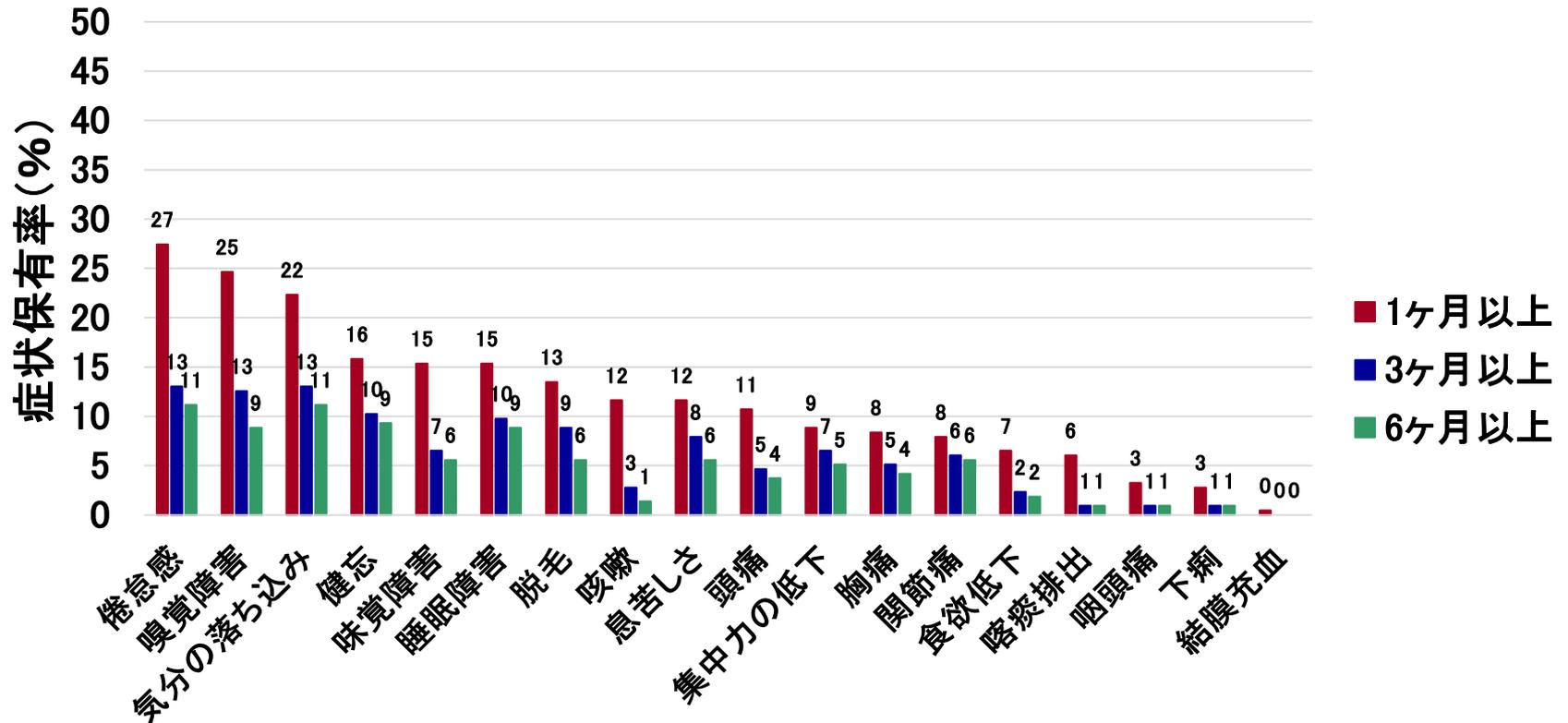
## 労作時呼吸苦あり (回答数=127)



コロナ感染前後で、労作時呼吸苦の割合に統計的に有意な差はみられなかった。

# 健康影響(症状)

## 健康影響(症状)(回答数=215)

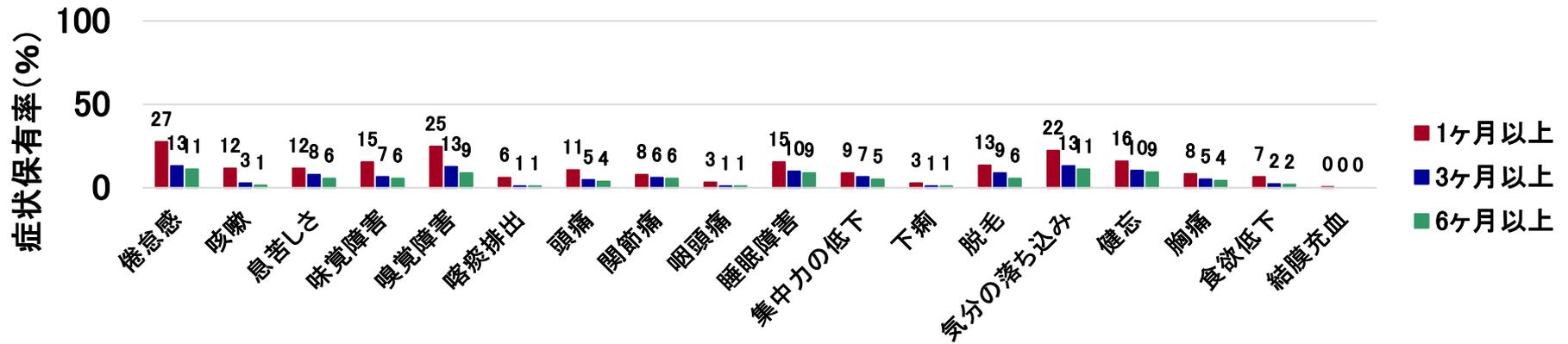


その他の症状:しびれ、動悸、便秘、筋力低下等

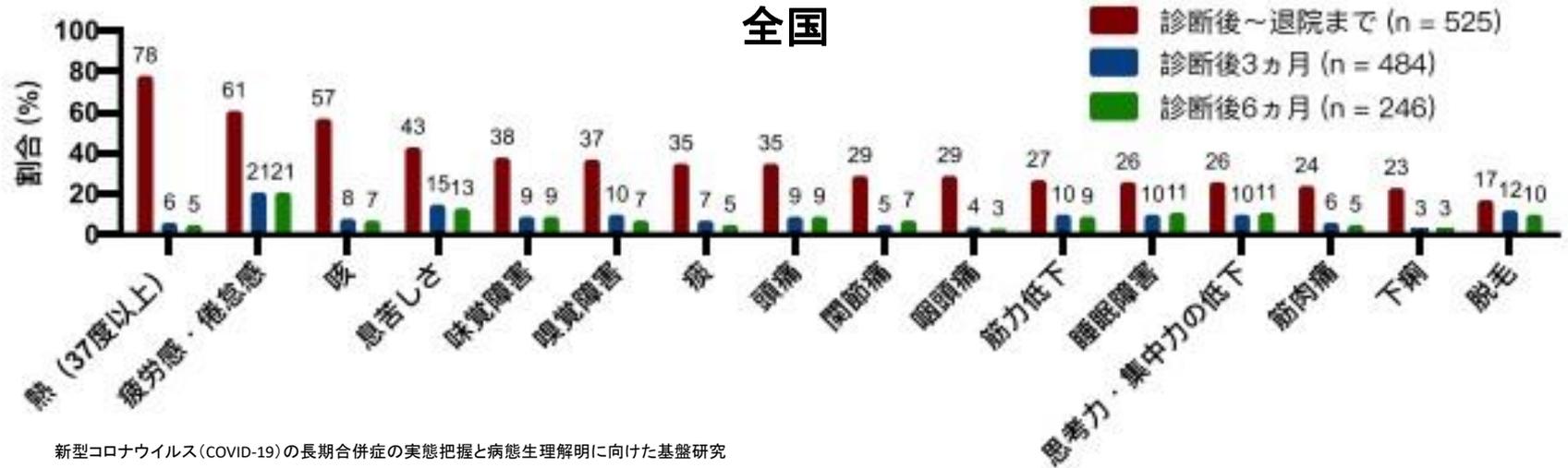
6ヶ月以上継続する症状として倦怠感、気分の落ち込みを訴えた方11%と最も多く、嗅覚障害(9%)等が続いた。

# 健康影響(症状)(参考)

## 岩手県



## 全国



新型コロナウイルス(COVID-19)の長期合併症の実態把握と病態生理解明に向けた基盤研究

倦怠感は岩手では低いが、症状の出現頻度や遷延の状況は全国調査と相関する結果となった。

# 気持ちの落ち込み

## 気持ちの落ち込み (有効回答数=149/213)



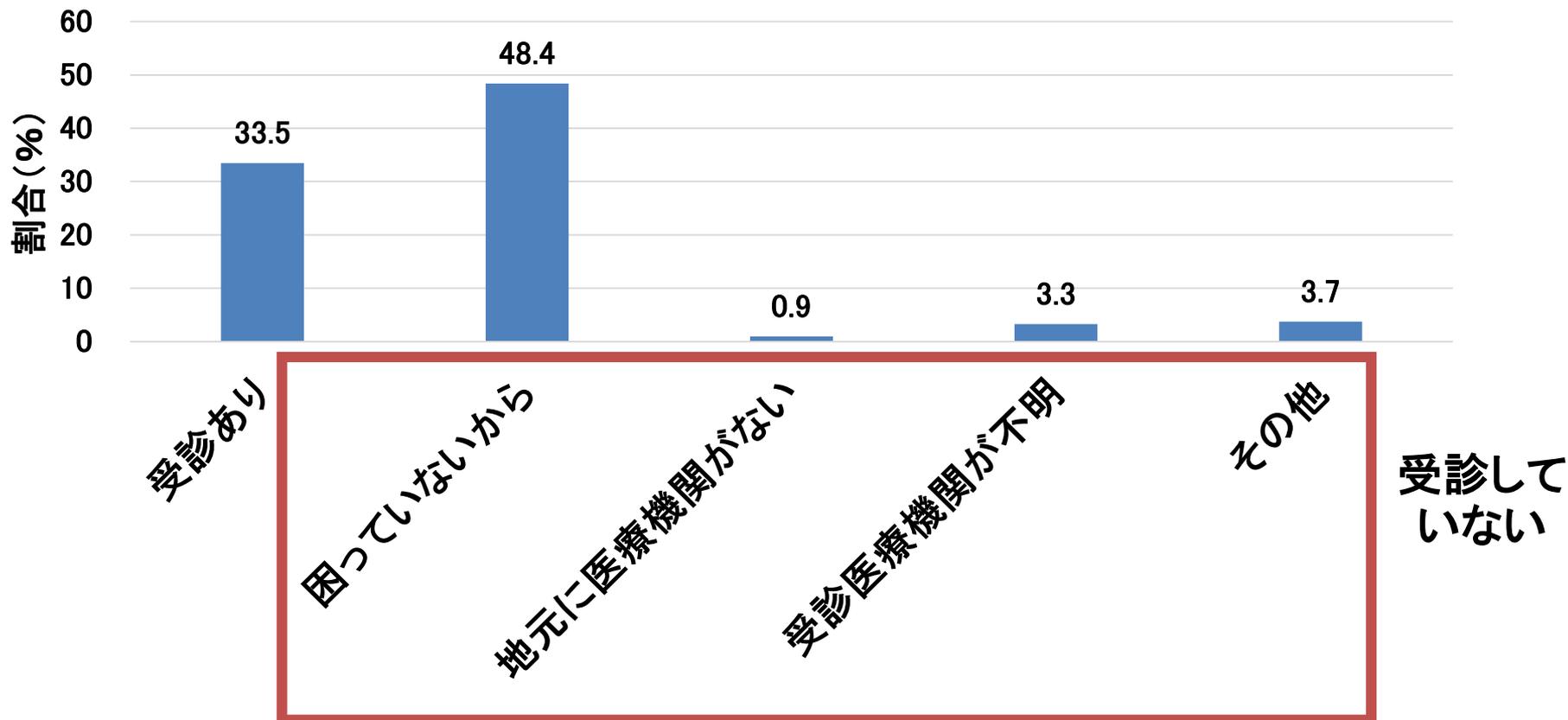
※ CES-Dで評価したところ、約10%に軽度以上のうつ症状を認めた。  
(参考)一般的な日本人では約30%に軽度以上うつ症状[1]

※CES-D(The Center for Epidemiologic Studies Depression Scale): うつ病の自己評価尺度。 64名(30%)は記載情報の不足のため除外。

1. 今野 千, 鈴木 正, 大嶋 公, 降旗 隆, 高橋 栄, 兼板 佳, et al. 日本在住一般成人の抑うつ症状と身体愁訴. 女性心身医学. 2010;15(2):228-36. doi: 10.18977/jspog.15.2\_228.

# コロナ後の医療機関の受診

## コロナ後の受診(回答数=215)



「受診していない」と回答したうち、10人程度の患者で医療機関へのアクセスが困難で受診をしていなかった。

※ 複数回答のため、割合の合計が100%にはならないもの。

## 医療機関 受診なしの理由(その他。自由記載)

- 受診予定していたが、自宅へ主治医より電話で後遺症との事でした。これからも自分なりに向き合っていくよりしかたがないと思ってる。
- ひっそりとしていたいから。
- 味覚・嗅覚の治療法が無いと思っているから、あきらめている。
- 気のせいかもしれないと思うとためらう。
- 感染後多少疲れやすくなったような気がしますが、入院した病院が自宅から遠い病院のため、受診していません。